



# し せい 至 誠

種子島中央高等学校  
生徒指導部より  
令和元年度第4号  
令和2年3月25日発行

## 1 一年間を振り返って

新しい元号とともにスタートした今年度も終わります。年度末は特に新型コロナウイルスの影響で、臨時休校になったり、卒業生だけの卒業式になったりと、予測不可能な出来事が多く起きました。こんな時だからこそ、落ち着いて、正しい情報のもとに行動する自主性と判断力が求められます。新型コロナウイルスに感染しても、若者は重症化しにくいと言われています。しかし、自分が罹患しなければいいや、という自分本位な考えでいいのでしょうか。高齢者の多い種子島。もし、高齢者が感染したら重症化してしまうかもしれません。こんな時だからこそ、他者を思いやる気持ちを忘れずに過ごしたいものです。

## 2 春休みの心得

春休みだからといって、ルールや規則が変わるわけではありません。学校でのルールに則った行動をしましょう。次に記載するのは、春休みに特に注意すべき事柄です。

- 1 規則正しい生活や健康管理に心がけること。歯科治療が必要な生徒は必ず治療すること。
- 2 危険箇所への立ち入りをしないこと。
- 3 スマートフォン等によるインターネットやSNS等の不適切な利用はしないこと。
- 4 無断外泊や夜間徘徊（午後9時以降）、深夜徘徊（午後11時以降）、問題行動（喫煙・飲酒等）をしないこと。
- 5 交通マナー・ルールを守ること。
- 6 男女交際は自分も相手も大切にすること。
- 7 新型コロナウイルスの影響で、臨時休校から引き続きの春休みとなります。生活リズムが崩れないようにすること。また、各種イベントなどへの参加は自粛し、人が多く集まる場所には行かないようにすること。

**春休み中のアルバイトはコロナウイルス感染拡大防止のため、禁止とします。**

## 3 緊急連絡先

万が一、事故や問題が発生した際は直ちに連絡を！

電話番号	学校 担任	0997	—	24	—	2401
			—		—	

## 4 修了式以降の行事予定

4月 6日	月	親任式・始業式 <u>頭髮服装指導</u> →この頭髮服装指導で合格しないと、生徒手帳用の個人写真撮影ができなくなります。頭髮服装指導で不合格だった人は、写真屋さんで自分で写真を撮りにいかなければなりません。必ず整髪しておくこと。
-------	---	---

## 5 生徒指導部から ～よりよい種子島中央高校をめざして～

### (1) 自己改善, できていますか?

自己改善とは何でしょう。日々暮らす中で、私たちは昨日よりも良い自分を目指しているでしょうか? 一日を振り返り、なぜあんなことを言ったのか、またはなぜあんなことをしたのか、顧みることにより、自分が成長できるヒントが見つかるのではないのでしょうか。もちろん、終わったことだけを振り返り、悔やんでいるだけでは生産的とは言えないでしょう。大切なのは、その経験を今後はどう生かしていくかです。

また、主語を自分にするということも忘れないようにしましょう。「なぜ、あの人はこうなんだ」「なぜあの人は〇〇できないんだ」など、相手を非難・批判することばかりに神経が集中し、思考の悪循環に陥ってしまうと、物事は決して好転しないものです。「自分はどうしたらよいか?」と、自分を軸に「自分にできること」を考えていくと、前向きな姿勢で物事に向き合えます。

他人を責めるのではなく、「自分がどう変わるか、自分がどう動いたらよいか」について、自ら考えられるようになりたいものです。

### (2) 自由とは何か, 高校生らしさとは何か

学校を含めた社会にはそれぞれのルールが存在します。中には、「なぜこんな校則が?」と思うものもあるかもしれません。校則の意義について、今、社会では大いに論議されていて、今後色々変わっていく可能性があります。激変する社会で生き抜いていく力を養うためには、批判的思考も必要とされます。つまり、何も考えずに何かに従ったり、流されたりするだけでは、主体的に考え、学ぶ力が身につくとは言えないのです。

だからと言って、既存のルールに従わなくてよい、ということにはなりません。生徒・職員・地域社会が考える「種子島中央高校生らしさ」には、幅があります。多様な価値観がある中で、大部分の定義が落ち着くところが種子島中央高校生の「粹」となるのです。また、社会全体が期待する「高校生らしさ」も忘れてはなりません。自分が高校卒業後に働きたい、学びたい場所で相手側に「この人を採用したい(うちの学生にしたい)」と思ってもらえるかどうかにも考慮に入れる必要があります。

教育学者の菅野一徳さんは著書の中で

「自分は自由だ、自由だ」と一方的に主張していれば、必ず他者とぶつかることになり、そのためかえって自分の「自由」を失ってしまうことになる。自分が「自由に」つまり「生きたいように生きる」ためにも、他者の「自由」も認め、尊重できるようになる必要がある。

と述べています。

「誰にどう思われても構わない。自分は自由に生きるんだ」と思う人は、その行動が本当の「自由」をもたらすものなのか、つまり他者を尊重しているのかを考えてみてください。他者を思いやらず、「自分のやりたいようにやる」は「自由」ではなく単なる「わがまま」です。ルールの中で互いの違いを認め合いながら「生きたいように生きる」。みなさんにはそんな高校生になってほしいと思います。

